

No.111
2013
Winter

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication



京都河村能舞台で能体験（八戸工大二高修学旅行）

CONTENTS

八戸工業大学

- p2-3 新年を迎えて、国際防災フォーラム、防災訓練、就職懇談会、キャンパスソフトハウスプロジェクト
- p4-5 サークル活動、彩才祭、感性デザインフェスタ、ETロボコン、ロボットコンテスト、ベンチ製作、学園祭表彰
- p6-7 教育研究活動、高大連携推進協議会、JABEE受審、公開講座、受賞、資格取得、行事予定、入試日程

- p8-9 **カラーページ**
八戸工大二高美術コース誌上作品展

八戸工業大学第一高等学校

- p10-11 修学旅行・宿泊研修・学年研修、職場体験、工大一祭、進路講演会、メンタルトレーニング、部活動、高総文、創作リズムダンス発表会、三部展+1

八戸工業大学第二高等学校

- p12-13 進路状況中間報告、冬ゼミ&学習合宿、絵馬復元、東大で研究発表、クリスマスリース寄贈、修学旅行、マレーシア派遣事業、東北大アウトリーチプログラム、美術コース作品展

さくら幼稚園

- p14-15 はっぴようかい、卒園児からのメッセージ、ようちえんってこんなところ、とらんぼりん
- p16 理事会報告・編集後記

新年を迎えて ～一人一人がグローバル人間に～



学長 藤田 成 隆

新年明けましておめでとうございます。

2012年の「今年の漢字」は「金」であり、その前の年は「絆」でした。その決め方として、11月から一般公募を始め、一票の多かった漢字が12月に清水寺で発表されているようです。ここ数年、事前予想がすべて外れたようですが、その年の世情を的確に反映していることは確かです。昨年の「金」は、金環日食、オリンピックでの金メダル、日本人ノーベル賞受賞などを考えたら当然だと納得します。

オリンピックレスリングの金メダリストの小原日登美さんと金メダリストで国民栄誉賞を受賞した吉田沙保里さんの父親の吉田栄勝さんはともに第一高校出身です。また、B-1のゴールドグラプリに輝いた八戸せんべい汁研究所事務局長の木村聡さんは第二高校出身でB-1の生みの親でもあります。法人内の出身者が大変活躍していることを誇りに思います。

さて、昨年策定された大学改革実行プラン（文部科学省）、日本再生戦略（政府）、グローバル人材育成戦略（グ

ローバル人材育成推進会議）およびアクションプラン（産学協働人材育成円卓会議）の中で、グローバル人材育成の重要性、方針および課題などがまとめられています。

一般的にグローバル人材とは「グローバル化が進んでいる世界の中で、言語や文化などの異なる多様な人々とともに仕事をし、活躍できる人材」と言われています。日本企業が、今まで以上に海外での事業展開や新興国をはじめとする新たな海外市場の開拓を行っていく際、そうしたビジネスを任される人材が必要となります。ただこれだけを強調すると、世界を股にかけて活躍する人材ばかりが必要というようにとれがちです。むしろ、仕事上の特定の場面でなんとか意思疎通ができ、また異文化の人々を理解し尊重できる人材育成が重要だと思います。それに、既成概念にとらわれず、チャレンジ精神を持ち続ける態度も必要です。そういう意味では、本学で実施している海外での語学研修やインターンシップがますます重要となります。

グローバル化の波は大学教育システムにも及んできています。まずは、一人一人がグローバル人間になることが先決です。国内外の社会・経済の変化、国の教育方針、学生・地域のニーズを理解し、自分自身や仕事を冷静に客観視して行動をすることです。そういうプロセスを経て初めて問題意識がわいてくると考えます。「井の中の蛙」「ガラパゴス」にならないことが重要です。

防災技術社会システム研究センター 「市民のための国際防災フォーラム」開催



12月7日、グランドサンピア八戸において「市民のための国際防災フォーラム」を開催した。

藤田成隆学長の挨拶のあと、海外からの講師を含めた3名の講演が行われた。まず、米国テキサスA & M大学ロビン・マーフィー氏から、自ら東日本大震災後に宮城県南三陸町で行ったロボットを活用した行方不明者の搜索、湾内の航行安全性確保の調査内容を含めた「Rescue Robots and Coastal Disaster（湾岸災害におけるレスキューロボット）」と題した講演をいただいた。

続いて、震災後さらに重要視されているエネルギー供給の一つである水素などの原子核を融合させる際に発生するエネルギーを活用した核融合について、国際核融合エネルギー研

究センター IFERC事業チーム専門家ジャック・ノエ氏による講演「Research on fusion energy in Rokkasho Simulation and Remote Experiment on ITER（六ヶ所村に於ける核融合研究－ITERのシミュレーションと遠隔実験－）」があり、実用化に向けての課題指摘と提言があった。

さらに、本学大学院工学研究科の濱島高太郎教授により、「Effective Use of Renewable Energy in Sustainable Development（持続可能社会における再生可能エネルギー有効活用）」と題した講演が行われ、エネルギーの消費量から勘案した新たなエネルギー制御の可能性、また実用化に向け進めている事業について理解を深めた。

進行・挨拶を含めフォーラムは、英語と日本語（逐次通訳）で行われ、講演終了後は、本学防災技術社会システム研究センターの活動に関するポスターセッションを行い、講演者を含めた参加者と防災・エネルギーに関する情報の共有を図った。また、本学の大学院生や学部4年生も講演聴講やポスター説明に参加し、貴重な研鑽の機会となった。



平成24年度防災訓練

11月28日、平成24年度の防災訓練が全学を挙げて行われた。

今年度は、八戸東消防署大館分遣所員の指導の下、学生と教職員を対象にした地震発生訓練を実施。技術系職員と事務系職員を対象に火災発生による3階からの救助袋を使用した脱出訓練、消火・放水訓練、AED及び消火器の操作訓練、警備員を対象にした発電機操作の訓練も行われた。

訓練は、午前の授業が終わろうとしている11時50分、地震発生を知らせる緊急避難音と非常放送によってスタート。学生には訓練の実施を事前には知らせていなかったが、教職員の誘導で、教室、研究室、食堂、廊下などから屋外の安全な



場所へ一斉に避難した。避難完了後、各避難場所に集まった学生達は消防署員らから講評を受け、無事訓練を終了した。

防火管理者の西田中裕祥法人事務局次長は、「今年度は、新たな試み



として救助袋による避難と消火栓からの放水を実施した。これらの訓練は体験する機会があまりないことから、参加者は本番さながらの訓練に真剣に取り組んでいた。これらの訓練を通じて更なる防災意識の向上と体制の強化を図っていきたいと考えている。」と話した。



本格的にスタートした3年生の就職活動

12月1日から企業の学生に対する会社説明会等の求人活動が解禁され、2014年春卒業予定の3年生らの就職戦線がいよいよスタートした。日本経団連の倫理憲章改定に従い、企業説明会などの解禁が2か月遅くなって2年目を迎えることになる。

本学では、12月13日・14日の両日、体育館で開催された「平成24年度第3回就職懇談会」には、企業170社が参加し、面接に臨んだ学生達は延べ638名に上った。学生と企業とのマッチングの機会を増やすため平成22年度から年4回開催し、平成23年度から主に3年生を対象とした開催は12月と2月の2回となった。

参加企業数は、昨年の同時期よりは20社程度増えたが、学生にとって油断のできない厳しい状況が予想される。また、参加企業の3分の1は建設業であり、製造や小売業・卸売業も多く、業種の割合は例年どおりであった。

各自が満足のいく就職活動を行うことで、目指す企業の内定獲得に向け、就職戦線を是非とも勝ち抜いてもらいたい。

学務部次長 竹内 貴弘（土木建築工学科教授）



「学内キャンパスソフトハウス」が業務を開始



本学には“社長になってやるぞ！”と夢を膨らませている学生たちが沢山いますが、社長になるというのは夢などではありません。学内から現実の話として花咲こうとしているのです。それが、システム情報工学科の学生によって組織された「キャンパスソフトハウス」プロジェクトです。

3年生の大平舜君（新潟・十日町高）がリーダーとなって立ち上げたこのプロジェクトは、企業からソフトウェア業務を請負い、期間内にプログラムを制作して納品し、報酬を受け取るというもので、現在7名の学生が所属しています。昨年10月17日、藤田学長が臨席してプロジェクトのキックオフが執り行われ、11月初めに青森県情報サービス産業協会からソフトウェアの請負業務を受注しました。目下、メンバーらが課外時間などにプロジェクト室に詰めて、熱心にプログラムづくりに取り組んでいます。

授業で学んだプログラミング力が社会に通用するか、学生主体の組織として成功するか、今後の活躍が大いに期待されるようです。

システム情報工学科長 栗原 伸夫（教授）

卓球部が団体戦とシングルスで優勝

11月17日・18日、宮城県栗原市の若柳総合体育館で開催された「第32回東北学生卓球連盟加藤杯争奪新人大会」の団体戦において、本学卓球部の男子Aチームが東北福祉大学を3対2で下し、優勝を果たした。

さらに、シングルス決勝は本学同士の戦いとなり、バイオ環境工学科2年の吉野裕規さん（北海道・北見柏陽高）が優勝、機械情報技術学科1年の工藤瑞斗さん（青森・八戸工高）が準優勝となった。また、電気電子システム学科1年の小館卓司さん（青森・弘前工高）が第3位に入賞した。ダブルスは、工藤・小館ペアと電気電子システム学科2年の柴田祐輔さん（北海道・駒大附属苫小牧高）とシステム情報工学科1年の押切圭介さん（秋田・増田高）のペアが出場し、両ペアとも第3位となった。

今大会は、本学卓球部が大活躍の大会となったが、今年度の大会を全て終えた選手達は、「来年は、春リーグでの優勝、全国ベスト8以上の成績を目指したい。」と次への活躍を誓っていた。



平成24年度彩才祭を終えて

文化会主催の「彩才祭」が、イオンモール下田を会場に15団体が参加して開催され、1200名を超える入場者で賑わいました。今回は、「来場者に楽しんでもらうこと」を目標に頑張ってきたので、アンケートの「来年も必ず来ます」「とても楽しかった」「明日も来たい」などの感想が、とても嬉しかったです。開催して初めて気がついたことも多く、改善点がたくさん見つかりましたが、それを含めとても充実した彩才祭だったと思います。

文化会の会長になって、これまで多くのことを学んできました。完璧に成し遂げることが如何に難しいことが実感しました。だからこそ、仲間と助け合いより良いものを作ろうと一生懸命頑張る気持ちが大事なのだと思います。今回得られたノウハウを生かし、次に繋げていきたいと思っています。参加した15団体の皆さん、学友会・体育会の皆さんの協力に心から感謝します。

文化会会長 高橋 紘貴

（システム情報工学科3年／青森・八戸工高）



アイススケート部 インカレ出場

「平成24年度東北地区学生アイスホッケー選手権大会兼第85回日本学生氷上競技選手権大会東北地区予選」に出場したアイススケート部アイスホッケーが、11回目のインカレ出場を果たした。同じくフィギュアも、「第6回東日本学生フィギュアスケート選手権大会兼第85回日本学生氷上競技選手権大会選考競技会」に出場、5回目のインカレ出場を果たした。

アイスホッケーは、1回戦で優勝候補の東洋大学と対戦

し、力及ばず1対10で敗退。本間貴士監督（学務部教務課）は、「優勝候補相手とはいえ悔いが残る。基礎的から鍛え直したい。」と来シーズンへの決意を語った。フィギュアは、感性デザイン学科1年の木村真人さん（青森・八戸工大一高）が、男子シングルに出場。ショートプログラムは最初のスピンの失敗したが、続くフリーではノーミスの演技を見せてパーソナルベストを更新した。来季の活躍を期待したい。

感性デザインフェスタ開催

感性デザイン学科では、2月9日から11日まで、学部の特徴・研究成果、活動を広く理解していただくために、感性デザインフェスタを開催します。八戸市内の近接した4つの会場（はっち、市美術館、NHK、チーノ）で同時に開催しますので、多くの皆様にご来場いただき、ご覧いただければ幸いです。同学科では、ビジュアルデザインコースと住環境デザインコースの学びがあり、企画力・アイデア発案力・主体的に動く力などの社会へ出たときの実践に役立つスキルを養成しています。本フェスタでは、作品や成果のアピールとそれを支援する姿勢を身につけること、人と人の繋がりを理解し、協調性を身につけることを目的に、1年から4年までの

縦の繋がりを重視した活動を展開します。展示内容は、1年は実習系科目の中から絵画に関する作品を、2年は学科科目や課外における活動の作品を、3年は実習系科目の中からイラストレーション関連の作品を展示します。4年は学生生活の集大成として実施した卒業研究・制作の成果を展示します。また学部の教育・研究成果、活動に関する総合展示を、はっちの3階で行います。

学年等	展覧会名称	場 所
総合展示	感性デザインフェスタ	はっち3階：ギャラリー3
1 年	絵画展	NHK/ハナミズキホール
2 年	アート・デザイン展	チーノ4階
3 年	イラスト展「ビッグ作画時代」	市美術館2階
4 年	卒業研究・制作展（通称：卒展）	はっち2階：シアター2



ETロボコンチャンピオンシップ大会に出場

11月14日・15日、横浜市のパシフィコ横浜で開催された「ETロボコン2012チャンピオンシップ大会」に、システム情報工学科の山口広行准教授の研究室チーム「ヒット&ラン」が出場した。

組込みシステム技術協会が主催するこのコンテストは、指定の二輪ロボットにそれぞれのチームが設計・制作したソフトウェアを搭載して自律走行させてタイムを競いあい、ソフトウェアの設計図とレース結果で勝敗を決めるというもの。今大会には、全国337チームの中から各地区大会で上位の成績を収めた40チームが参加した。山口准教授のチームは、27チームが参加した東北地区大会で総合3位に輝き、全国大会出場への切符を手にした。全国大会は総合36位と残念な結果だったが、次回大会に向けて新メンバーで再挑戦するという。参加した同学科4年の学生メンバーは、写真左から菊池恭史さん（岩手・花北星雲高）、工藤正躍さん（青森・八戸工大一高）、中村歩夢さん（青森・八戸西高）の3名。



災害公営住宅に設置するベンチを製作

私が所属するADL（建築デザイン研究会）では、東日本大震災復興のために何かできることはないかと考え、昨年7月、八戸市が建設を進めている多賀台災害公営住宅の入居予定者を対象に、同住宅の集会施設に関する調査を行いました。そして、「座布団ではなく、椅子やベンチに座りたい」という住民の声を元にベンチを作ることになりました。地元森林組合から被災したクロマツを提供して頂けることになり、10月6日の学園祭で行われた公開コンペティションで、6作品の中から被災した市川地区に流れる奥入瀬川と五戸川をモチーフにした「灯だまりの間」が選ばれました。現在、「ふれ愛プラザあおば」の協力により、3セットのベンチを製作中です。



今後私達が製作したベンチが、クロマツによって地域が津波被害から守られことや震災を忘れさせない存在になってくれればと考えています。また、そこに座る人々が木のぬくもりを感じ、癒されるようなベンチを目指しています。

土木建築工学科4年 秋山 由衣（青森・八戸南高）

第15回ロボットコンテスト開催

12月12日、A Vホールにおいて機械情報技術学科3年生による「第15回ロボットコンテスト」が開催された。コンテストは、20班に分かれてトーナメント形式で行い、今年度は東京スカイツリー開業を記念し「スカイツリーを目指せ」の新テーマで競い合った。

今回のルールは、横に並べられた大きさの違う5種類の円柱状ブロックを、縦方向に積み上げるもので、すべて積み上げると、高さが634mmになり、形も東京スカイツリーに見えるというものである。

優勝したロボットは、B-5班の中村一仁さん（青森・八戸工大一高）、中村大二郎さん（青森・八戸工大一高）、名久井祐貴さん（青森・八戸工大一高）、成田瞬さん（青森・東奥義塾高）の4人が製作したロボット「N4」。このロボットが、5種類のブロックをすべて積み上げ、見事スカイツリーを完成させたときには、会場内から大きな歓声と拍手が沸き起こった。また、このロボットコンテストは、3年間で学んだ「ものづくり」の集大成として公開授業としており、参観した八戸工大一高の先生達は、卒業生の活躍を喜んでいた。



第40回学園祭表彰

学園祭の活性化に貢献した団体に贈られる「第40回学園祭表彰」が決定し、11月22日、表彰式が行われた。

表彰団体

◇学科研究展示部門

- ・学 長 賞 関川研究室（感性デザイン学科）
- ・学務部長賞 大黒研究室（機械情報技術学科）
信山研究室（電気電子システム学科）

◇課外活動展示部門

- ・学 長 賞 茶道愛好会
- ・学務部長賞 合唱愛好会、ARTSTECH研究部
吹奏楽部

学会・講演会（10月～1月）

- ◇学術講演会 10月22日／八戸工業大学
- ◇日本設計工学会東北支部研究発表講演会 11月3日／八戸工業大学
- ◇第5回青森土木フォーラム講演会 11月10日・11日／青森県総合社会教育センター
- ◇知財情報検索技術講座 12月3日・4日／八戸工業大学
- ◇電子情報通信学会東北支部学術講演会 12月14日／八戸工業大学
- ◇放射線等に関する教育職員セミナー 12月18日／八戸工業大学
- ◇広域大学知的財産ネットワーク意見交換会 12月21日／八戸工業大学
- ◇電子情報通信学会東北支部学術講演会 1月11日／八戸工業大学
- ◇平成24年度八戸工業大学ものづくり次世代型技術者養成事業特別講演会 1月15日／八戸工業大学
- ◇第4回寒冷地環境に関するセミナー in八戸工業大学 1月15日／八戸工業大学

アグリビジネス創出フェアに出展

11月14～16日、東京ビッグサイトを会場に、農林水産省が主催する「アグリビジネス創出フェア2012」が開催され、15日に大学院機械・生物化学工学専攻の青木秀敏教授が「光照射乾燥法」の研究を展示し、「光照射が収穫された地域農水産物の貯蔵・乾燥に及ぼす効果」と題しプレゼンテーションを行った。

このフェアは、農林水産・食品産業分野における技術交流展示会で、全国

から189機関が出展、33,000人が参加して活発な交流が行われた。今回出展した青木教授の研究は、野菜を貯蔵する際に青色の光を当て栄養価を高める新しい貯蔵乾燥方法。12月5日、仙台市で開催された東北地域のフェアにも出展し、プレゼンテーションを行った。今回の出展により、青木教授の研究が事業者らとの新たな連携に繋がり、進展することが期待されている。

第11回高大連携推進協議会



12月12日、本学で平成24年度第11回八戸工業大学高大連携推進協議会が開催された。

この協議会は、本学と青森県内及び岩手県北の高校との連携推進を目的に

平成13年に設置されたもので、高等学校の校長と協議し、連携・推進を図ることが目的。34校が参加した。今回は、青森県教育庁学校教育課の古川浩樹指導主事が出席され、「高大連携について～大学の初年次教育に求めるもの～」と題し基調講演を行った。その後「商業教育における高大連携」「八戸工業大学における物理リメディアル」「地方におけるキャリア教育型高大連携の実践的研究」の3件の報告があり、今後の高大連携への取り組みについて種々意見交換を行い相互に理解を深めていた。

JABEE（日本技術者教育認定機構）を受審

11月4日から6日までの3日間に二つの学科が実地審査を受けました。新規審査のバイオ環境工学科バイオ環境工学コースおよび10年目の認定継続審査の土木建築工学科土木工学コースです。この審査は、学生に双方向性の教育を行う努力とその成果が表れているか、そして教育改善が進んでいるかなどについて行うもので、国際的な水準と比べて行われます。二つの学科の実地審査の結果は、改善計画書等のやり

取りを経て平成25年5月に結果が送付されます。

審査対象が同時に二つ以上ある大学では、昨年からメンター（調整役）が連絡調整を行うことになりました。JABEE自体も1999年に設立されてから基準や審査方法の改善が進められており、このメンター制もその一環です。

自己点検専門委員会委員 熊谷 浩二
（土木建築工学科教授）

八戸工業大学公開講座

講演会「減災と震災復興」 （土木建築工学科）

10月20日／八戸ポータルミュージアム「はっち」
災害復興における地域振興とジオパーク・三陸復興国立公園について・くらしと災害



感性の歌声2012（感性デザイン学科）

11月30日／本学AVホール
ソプラノ歌手阿部さと子さんの歌声で感性と癒しのハーモニーを体感



環境中の身近な生物を調べよう （バイオ環境工学科）

12月1日／バイオ環境工学科
簡単な顕微鏡の製作、小さい生物や生物の体を観察



環境中の身近な水を調べよう （バイオ環境工学科）

12月15日／青森県観光物産館アスパム
身近な水の汚染の度合いを分析キットで調べ、生活の中から環境を考える
親子で作るクリスマスオブジェ
（感性デザイン学科）

12月8日／感性デザイン学科
クリスマスの照明オブジェを親子で作



受賞おめでとうございます

藤田成隆学長 静電気学会最高賞「会長賞」

9月13日・14日、本学を会場に開催された「第36回静電気学会全国大会」において、藤田成隆学長に同学会の最高賞である「会長賞」が贈られた。

今回の受賞は、藤田学長の永年に亘る研究活動が同学会の発展に貢献したとして、その功績が認められたものである。同賞の該当者は、2007年以来5年ぶりとなる。



松ヶ崎成さん エクセレントプレゼンテーションアワード



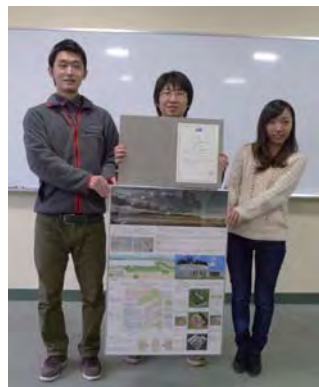
博士前期課程電子電気・情報工学専攻の松ヶ崎成さん（青森県出身）が、9月13日・14日に本学を会場に開催された「第36回静電気学会全国大会」で発表した絶縁材料の研究が、エクセレントプレゼンテーションアワードに輝いた。論文名：改質剤を添加し熱処理をしたポリ乳酸の機械的および絶縁破壊特性

渡邊浩平さん 土木学会「優秀講演賞」

博士前期課程土木工学専攻の渡邊浩平さん（山形県出身）が、9月24～27日に名古屋大学で開催された土木学会第67回年次大会で発表した研究論文「凍結融解を受けた鉄筋コンクリートの付着強度特性」が、第V部門621件の中から優秀講演賞41件の一つに選ばれた。



JIA東北建築学生賞「賛助会特別賞」



(社)日本建築家協会（JIA）東北支部が主催する「第16回JIA東北建築学生賞」に、土木建築工学科4年の後藤忠平さん（秋田・秋田西高）、山口裕史さん（青森・八戸高）、秋山由衣さん（青森・八戸南高）の3名で応募した『たかだいたがだいの灯』が、賛助会特別賞を受賞した。この建築作品コンクールは、建築を勉強する学生同士の交流と建築文化の向上を目的に毎年行われているもので、今回は13校（大学10、高専2、専門学校1）から34作品の応募があり、その中から10作品が選ばれた。

工作技術センター日影学工師補 「一級技能士」に認定

国家検定の平成24年度前期技能検定試験を受験した工作技術センターの日影学工師補が、機械加工（普通旋盤作業）の一級技能士に認定された。

実技試験は、普通旋盤を使用し、4時間以内に指定の材料に内外径削り等の切削加工を行い、はめ合わせのできる部品を3個製作する。同分野の青森県の一級合格者は3名のみ。全国の合格者は120名（受検申請306名）、合格率は39.2%だった。



2～4月 行事予定

2月

- 5日（火） 専門高校・一般入試（前期）
- 18日（月） 大学院入試（二次）～19日（火）
- 20日（水） 第4回就職懇談会 ～21日（木）
- 22日（金） AO入試

3月

- 15日（金） AO入試
- 16日（土） 春のオープンキャンパス
- 19日（火） 学位記授与式
- 21日（木） 一般入試（後期）
- 31日（日） 後期終了・学年終了

4月

- 1日（月） 学年開始・前期開始
- 3日（水） 平成25年度入学式
- 4日（木）～5日（金） ガイダンス・開講試験（1学年）
- 8日（月） 前期授業開始

平成25年度入試日程

工学部・感性デザイン学部

問合せ先 入試部入試課 0178-25-8000（直通）

選抜方法		願書受付期間	試験日
専門高校入試		平成25年1月4日(金)～1月23日(水)	平成25年2月5日(火)
一般入試	前期	平成25年1月4日(金)～1月23日(水)	平成25年2月5日(火)
	後期	平成25年3月1日(金)～3月13日(水)	平成25年3月21日(水)
センター入試	前期	平成25年1月4日(金)～2月1日(金)	平成25年1月19日(土)・20日(日)の大学入試センター試験
	中期	平成25年2月12日(火)～2月22日(金)	
	後期	平成25年3月1日(金)～3月15日(金)	
AO入試	クール	エントリーカード受付期間	面談日
	第3クール	平成25年2月4日(月)～2月13日(水)	平成25年2月22日(金)
	第4クール	平成25年3月1日(金)～3月6日(水)	平成25年3月15日(金)



「夏」CG／B2
尾崎 茉穂（湊中）



「LIBERTY」CG／B2
鈴木 智之（江陽中）



「夢の続き」コラージュ／B1
一戸 彩花（八戸第三中）



「前進」油彩／F30
一ノ瀬 咲貴（大館中）



「嬉しい！楽しい！ 今日とっても素敵な1日！」
日本画／130×65
田名部 美妃（下長中）



「28の瞳」油彩／F8×14
小西 友莉香（鮫中）

八戸工大二高 美術コース 誌上作品展



「おしゃべり」油彩／M100
阿部 遥（是川中）



のんびりくまさん こぼしたよ



ありさん とことこ どこいくの？

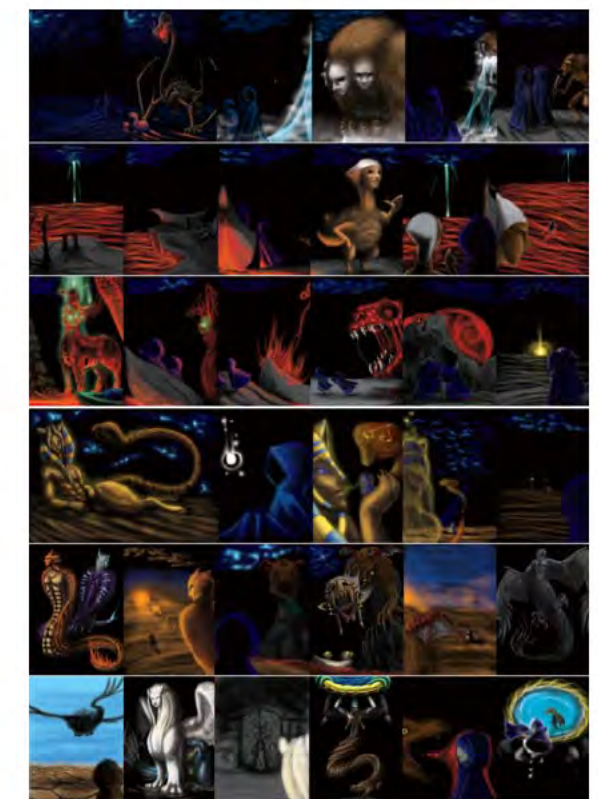
「おさんぽふくろう」CG／B1×2
苔米地 結子（明治中）



「絶滅した彼ら」油彩／F100
水戸 七海（泊中）



「ひまわり食堂」日本画／F20
小橋 春香（南部町立杉沢中）



「冥界物語～絶望と奇跡～」CG／A2
本間 以奈（天間館中）



2 学年

修学旅行

関西・九州方面への修学旅行は、12月4日から8日まで、新幹線・フェリー・バス・飛行機を乗り継いで片道1,800kmの旅となった。関西では、金閣寺、清水寺、大仏殿、薬師寺、USJを見学後、明石海峡大橋の夜景を見ながら船中泊。九州では、バスでクラス別研修を行った。被爆者体験講話と平和セレモニーが行なわれた長崎では、路面電車で班別研修も行った。天候にも恵まれ、充実した旅程の中でご当地の食を堪能し、実り多い修学旅行となった。

1 学年 プロジェクト・マネジメント教育

12月5日から7日まで、国立岩手山青少年交流の家において2泊3日の宿泊研修を実施した。企業訪問または大学見学などの他に、新企画として、ベネッセコーポレーションとPMI日本支部のコラボレーション企画を実施した。後者はプロジェクト・マネジメントの世界最大の組織である。生徒は「八戸を活性化させるプロジェクト」を題材に企画書の作成および発表を行った。世界標準の思考プロセスの一端を体験することを通して、仲間や教員と親睦を深め大いに盛り上がった。



3 学年 充実した学年研修会

12月5日～7日、3学年は「社会人としての心構えと知識を習得する」ことを目的に研修会を実施した。初日は、本校体育館で外部講師による「消費生活講座」「身だしなみ講座」



と本校の同窓会会長による講話。2日目は、『郷土八戸を知ろう』というテーマで、クラス毎に分かれて市内のバス見学を行った。最終日は、外部講師による「交通講話」「冠婚葬祭講話」が行われ、午後は市内4会場に分かれ「テーブルマナー講座」を行った。盛り沢山の研修内容だったが、生徒達は落ち着いて行動し充実した研修会であった。

職場体験実習

今年の職場体験実習は、10月10日から12日まで3日間にわたって行われた。生徒達は進路選択の時期を見据え、日頃とは違う緊張感が漂っていた。実際に事業現場を体験し働くとはどういうことか、少しは感じ取ることができたようである。今回の体験が教室での経験を遙かに超える学習体験となつて、今後の学習に生かされることを期待している。



第43回工大一祭



10月27日・28日、『金メダルstory～僕らがつくる物語～』をスローガンに、第43回工大一祭が開催された。各学年が工夫をこらした学年展示は、訪れた人々を感心させていた。また、文化部を中心とした展示場も見所満載であった。恒例の大演芸大会では、笑いや手拍子が絶えず、会場全体が沸き返っていた。普段の学校生活では見ることのできない生徒達の表情や意外な一面が垣間見える工大一祭は、今年も大いに賑わい終了した。

1 学年進路講演会

11月14日、八戸工業大学から大学院生の菅原雄一さん（工学研究科博士前期課程建築工学専攻）を講師に招き、「高校時代にしておきたいこと～大学院生の視点から～」と題する進路講演会を実施した。菅原さんの講演は、高校生の目線に合わせたわかりやすい内容で、生徒達は終始真剣な表情で聞き入っていた。





11月30日、メンタルトレーニングの第一人者である高妻容一氏（東海大学体育学部教授・スポーツメンタルトレーニング上級指導士）を招き、教員対象の研修会を実施した。

高妻氏は、メンタルを強化するための科学的根拠から具体的な対策まで様々な事例を紹介し、出席者全員身を乗り出すようにして聴き入っていた。今回の講演は、スポーツだけではなく学習活動にも応用できるので、今後の指導力アップが期待される。

創作リズムダンス 発表会

11月21日、八戸市公会堂において3学年女子による創作リズムダンス（よさこいソーラン）の発表会が行われた。この催しは、体育の授業で練習を重ねてきたダンスを披露するもので、毎年実施している。本番当日は、若さあふれる堂々としたダンスを披露し、会場は観客の声援も後押しして大いに盛り上がった。発表後の生徒達の顔はどの顔も誇らしげで、達成感と充実感に満ちあふれていた。



第91回全国高校サッカー選手権青森県大会 準優勝 17年ぶりの快挙

10月11日から11月4日にかけて青森県総合運動公園陸上競技場で青森県大会が行われた。準決勝は、200人を超える大応援団の後押しで前半を0-1で折り返した。河合大匡監督は「応援の力で必ず同点になる。あとは自分達の力だけで逆転してこい」と助言し、その結果3-1で勝利した。決勝は0-6で大敗したものの、応援のおかげで最後まで戦い抜くことができた。保護者をはじめ学校関係者など多くの方々に応援していただき、ありがとうございました。



全国選抜高校バスケットボール県予選大会 準優勝

9月8日・9日、県予選大会が五所川原市民体育館で行われた。本校は3年生が引退し、新チームで大会に臨んだ。対戦成績は、1回戦92-67（対八戸東高）、2回戦60-35（対八戸工業高）、準決勝60-59（対八戸西高）、決勝69-83（対弘前実業高）であった。

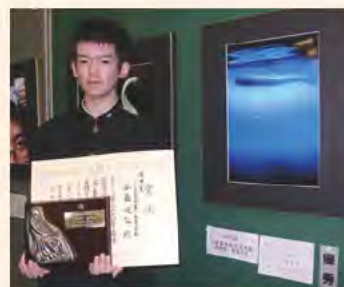


全国大会出場を逃し悔しい思いをしたが、3年生が出場していた弘前実業と最後まで粘り強く戦うことができた。この経験を次に繋げて行きたい。

第33回県高校総合文化祭（写真部門）

高校生が日頃の芸術文化活動の成果を発表し、交流を深めることを目的とした第33回県高校総合文化祭が、10月5日から3日間開催された。

写真部門は、リンクステーションホール青森を会場に開催され、県内の高校の写真部30校から昨年度より約20点多い323点が出品された。本校は部員13人が、規定枠最大の15点を出品した。その中から、安藤峻気君（普通科2年・宿戸中）が優秀賞、四本木聖奈さん（普通科1年・湊中）が優良賞を獲得し、安藤君は今年8月に長崎県で開催される「第37回全国高総文祭写真部門」の青森県代表に推薦された。



第32回三部展+1



写真部・美術部・放送部の三部による恒例の「三部展」が、11月3日・4日の両日、八戸ポータルミュージアム「はっち」で開催された。今年度は、ロンドンオリンピックレスリング競技で金メダル

を獲得した本校OGの小原日登美さんの記念展、JRC部、パソコン部を加え「三部展+1（プラスワン）」として実施した。小原さんの記念展のブースには、賞状やオリンピックで使用したシューズ、ポロシャツ等が展示され、入場者の目を引いていた。また、本校教員による「木工・ペーパークラフト展」では、木材を加工して制作した振り時計が講評を博した。

平成25年度 進路状況中間報告

1月16日現在

国公立大学 20名合格!!

釧路公立大学、北海道教育大学函館校2名
室蘭工業大学、青森県立保健大学2名
青森公立大学、弘前大学2名、岩手県立大学
岩手大学3名、宮城大学、秋田大学
山形大学2名、福島大学、群馬県立女子大学
都留文科大学

平成24年度3学年(38回生)の進路状況が判明した。国公立大学20名、私立大学46名、短期大学9名、専修・各種学校32名が合格し、就職・公務員は12名の採用内定が決定している。特に青森県警は昨年度に引き続いて現役で内定を果たした。現3年生は、在籍数164名と少ない中で、合格率は非常に高いものになっている。これも、生徒一人一人の進路達成に向けて、全校を挙げて対策に取り組んできた結果といえる。残り2か月、一般入試や就職試験に向けて挑戦する生徒に期待をしたい。

推薦・AO入試合格状況

【私立大学】

八戸工業大学13名、札幌国際大学、八戸大学3名、岩手医科大学2名、仙台白百合女子大学、東北学院大学3名、東北福祉大学、日本赤十字秋田看護大学、東北芸術工科大学3名、白鷗大学、駿河台大学、法政大学2名、日本大学、國學院大学、二松學舎大学、駒澤大学、玉川大学、専修大学2名、東京未来大学2名、女子美術大学2名、武蔵野大学、関東学院大学、東京電機大学 他

【短期大学】

八戸短期大学3名、青森明の星短期大学、盛岡短期大学、淑徳短期大学、湘南短期大学 他

【専門学校】

八戸工科学院3名、東北メディカル学院3名、八戸歯科衛生士専門学校2名、八戸准看護専門学校、専門学校アレック情報ビジネス学院2名、八戸理容美容専門学校3名 他

【就職】

青森県警、自衛隊3名、有限会社セーフティー、(株)エレテクノス、(株)松居組、見心園、ナナヨウ、はたやま歯科医院 他

【医療系各種学校 合格の詳細】

青森県立保健大学健康科学部看護学科2名、岩手医科大学医学部医学科・薬学部薬学科、日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科、八戸短期大学看護学科、湘南短期大学看護学科、東北メディカル学院理学療法学科4名、八戸歯科衛生士専門学校歯科衛生士学科2名 他

就職もがんばっています！

情報ビジネスコースは進路達成支援に力を入れており、簿記検定の取得支援や夏休み、冬休みの就職対策ゼミを開講している。青森県警察・警察官Bに現役合格を果たした久保田拓朗君は、公務員試験対策の問題添削と面接対策を毎日行い、倍率9.3倍の狭き門を見事に突破した。



久保田 拓朗
(情報ビジネスコース3年/下長中)

目標であった青森県警に合格することができ、非常に嬉しいです。私自身、もちろん努力はしましたが、それ以上に先生方、家族や友人のサポートがあったからこそ合格できたと思っています。二高に入学して、本当に良かったと思います。

ゼミ&学習合宿 更なる飛躍の冬

12月23～28日と1月4～9日の合計12日間、全コースを対象に冬期学習会が行われた。各コースごとに特色のある学習会となり、カレッジコースでは1、2学期の復習と基礎固め、情報ビジネスコースでは簿記や就職対策ゼミ、美術コースでは実技ゼミが行われた。特に3年生はセンター試験本番を意識して、試験形式で予想問題に挑戦する形を取り、センター直前の実力アップを図った。

また、カレッジコースの1、2年生を対象に、12月24～27日まで岩手県北青少年の家で3泊4日の学習合宿を実施。今回は「自学自

習力の向上・定着」を目的として、一日あたり200分を越える自習時間が設定された。与えられた課題を確実にこなすために各自でペースを配分し、効率的に学習する習慣を身につけることを目指した。また阿保民博校長による特別物理講習も設定され、生徒たちは意欲的に取り組んでいた。



絵馬復元 八戸市の諏訪神社



美術コース2年生の館石静羅さん(種市中)、西澤亜希子さん(堀口中)、川村萌絵璃さん(白山台中)の3名が、八戸市の諏訪神社に江戸時代から伝わる絵馬の復元作業を行った。絵馬は三十六歌仙の肖像を描いたもので36枚奉納されているが、内3枚が紛失していた。この3枚を復元したものと、更に現代のタッチで新しく創作したもの3枚を加え、合計6枚を奉納した。



依頼者は本校生徒の保護者で、諏訪神社の宮司を務める中館弘一さん。生徒達は描く前に諏訪神社を訪問して、詳しい話を伺い、イメージをふくらませた。制作にあたっては「佐竹本三十六歌仙絵巻」を原画とし、一辺約50cmの杉板に墨で線描きした上で、日本画専用の絵具で彩色。これは、江戸時代の技法に近い方法である。美術コースでは日本画を学んでおり、その技術が活かされただけでなく、文化財の復元にも役立った形になった。

東京大学での研究発表に参加

(文部科学省主催「放射線に関する課題研究活動の支援」発表会)

12月26日、東京大学で行われた、文部科学省主催「放射線に関する課題研究活動の支援」発表会にカレッジコース2年生の上野智宥さん(湊中)と小泉早紀さん(八戸東中)が参加した。

今年度、全国の高等学校・高等専門学校の中から47校が選ばれてこの研究活動に参加している。今回の発表は其中でも研究内容が優れている8校が選抜されて行ったものである。本校は「放射線を利用した発電は可能か」というテーマを掲げて活動に取り組んできた。これまでに、放射線の性質を知る実験や文化祭での発表、東京都市大学原子力研究所の見学などを経て、考察を深めてきた。また、八戸工業大学の協力を得て放射線を太陽電池に照射する実験を行った。発表では質疑応答にも適切に堂々と対応し、慶応大学医学部の井上浩義教授からの講評では、プレゼン能力の高さとともにあえて困難だと思われる課題に取り組んだ点を高く評価された。発表の様子は新聞各紙に大きく取り上げられた。



修学旅行に行ってきました!

京都・大阪・奈良へ4泊5日の旅

2学年は、11月26日から5日間の日程で、関西方面へ修学旅行を実施した。

初日からぐずつく冬空を心配したが、京都駅に到着した頃には雨も上がり、黄昏時の金閣寺そして夜間特別拝観でライトアップされた清水寺を見学できた。翌日の京都市内自主見学は、班ごとのプランで行動した。夕食後、京都御所北西にある河村能舞台で、能楽普及協会理事の河村純子氏が案内役を務めるワークショップを行った。最初に各クラスの代表が能舞台に上がって能楽の基礎を体験した後、屋島の一場面を演じる能楽鑑賞で締めくくり、しばしの幽玄の世界に浸った。



3日目の奈良の神社仏閣群見学となんばグランド花月での新喜劇鑑賞、4日目の海遊館やUSJ見学など、盛りだくさんの内容に生徒達は満足の旅行であった。

12月16日、陸前高田市の仮設住宅へクリスマスリースを寄贈した。7月の絵画寄贈に引き続いて行ったボランティアの一環である。生徒会が中心となって校内の募金で費用を集め、リース素材業者のCoCo Heartさんのご協力を頂き、生徒会役員が150個のリースを作成し、ラッピングとメッセージカードを添えて完成させた。当日は生徒会長の佐俣柊哉君(カレッジコース2年・根城中)と書記の山道亜紀さん(カレッジコース2年・八戸東中)が直接出向き、住民の方々と交流しながら小さな贈り物を手渡した。絵の寄贈を覚えていてくれた方も多くおり「絵の隣に飾るよ」など温かいお言葉を頂いた。今後も、継続した支援を続けていきたいと考えている。



▶ 東北大学アウトリーチプログラムに参加

12月13日、八戸市公会堂にて、第6回東北大学高等教育開発推進センターアウトリーチプログラムが開催された。この行事は東北大学の教員が様々なテーマに沿って高校生のための講演を行うもの。平成19年度に盛岡市で開催されたのを皮切りに、平成20年度から県内各地域で開催されているものである。今年度は、八戸高校、八戸東高校、八戸北高校、八戸西高校、三戸高校と本校の6校、総勢約1500名の大規模な講演会であった。今回テーマ「働くって何だろう」のもと、仕事を通して夢を実現している方々の事例などを交えた3つの講演に参加した生徒たちは熱心に聞き入っていた。



こんにちは Selamat tengahari, Malaysia!

～冬休み海外派遣事業～



12月20～1月10日まで、ライオンズクラブ国際協会主催の冬期YE派遣生として北澤瑠希君(カレッジコース2年・階上中)と外館佳奈さん(カレッジコース2年・大館中)がマレーシアに派遣された。二人はそれぞれホームステイをしながら現地の若者らと交流し、現地の施設見学や意見交換会、歓迎行事に参加した。また、マレーシアならではのクリスマスの過ごし方や年越しなど貴重な経験を通し、文化の違いを肌で感じる事ができたようである。

美術コース作品展

12月14～16日の3日間、八戸ショッピングセンターラピアの2階ラピアホールと1階催事場で美術コース第27回作品展を開催した。美術コース生73名が制作した約180点の作品を展示し、来場者は1147名と過去最高に上った。

1階には高さ5mの大型の立体作品が設置され、その周囲に「家」をテーマに作られた立体作品6点が立ち並び、家族連れや子どもなどの注目を集めた。2階には3年生の卒業制作や卒業生による賛助作品が展示され、100号サイズの油彩、日本画、アニメーション、絵本のイラストレーション等、各自の専攻分野で作られた作品が、来場者の目を楽しませた。[作品の一部はカラーページで紹介しています。]



はっぴょうかい



12月13日・14日の2日間、クリスマス会が行われた。子どもたちは全員「お家の人に見てもらいたい」「サンタクロースからプレゼントをもらいたい」という気持ちでいっぱいだった。たくさんのお客様を前にして緊張した様子だったが、精一杯演じていた。演目がすべて終了し、次のアトラクションが始まると、突然サンタクロースから電話がかかってきた。一瞬ざわめいたがすぐに静かになった。「あわてんぼうのサンタクロース」を歌い終わると、鈴の音がだんだん大きくなり、待ちに待ったサンタクロースが登場した。大きな歓声が沸き起こる中、一人ずつプレゼントをもらい、楽しいクリスマス会が終了した。

卒園児
からの
メッセー
ジ

懐かしい園歌

「♪はくとわたしのさくら幼稚園♪」と、今でも元気に園歌を歌っていた頃を思い出します。芝生の広い園庭、たくさんの遊具、運動会やクリスマス会などすべて懐かしく感じられます。私は今、園歌の「♪さくらの花の咲く丘♪」ならぬ「さくらの花の咲く学校」に通っています。勉強、部活、生活のどの面においても周りと切磋琢磨し、進学したい大学、就きたい職業をめざし、今できることを精一

杯しています。仲間と協力することや向上しようと努力すること、それらの原点はさくら幼稚園にあると思います。私に無限の可能性を与えてくれたさくら幼稚園に感謝の気持ちでいっぱいです。後輩の園児たちには、自由にたくましく育ってほしい。そして、「♪みんな元気に♪」育つことのできるさくら幼稚園に、「♪今日も明日も強い♪」自分に成長し続けることで恩返しができたと思います。



八戸高等学校2年
大野 倅汰さん
(平成13年度卒)

ようちえんってこんなところ



飛行機見学会(年長組)

「自衛隊のヘルメット、かっこいいね」



焼き芋会

「おいも、ほくほく おいしいね」



お店屋さんごっこ

とらんぽりん

～ある日の保育日誌～

満3歳いちご組

「○○ちゃん、私のこと好き?」「うん、好き!」「私も○○ちゃん好き!」となかよく遊んでいたかと思うと、遊具の取り合いが始まったりする。まだまだ「私のものは私のもの。あるものはみんな私のもの」なのだ。だがその周りでは、そんなことにおかまいなしで好きな遊びに夢中だ。そんな中でも「○○ちゃんは?△△ちゃん?」「明日は来るかな～」と休んだ子を心配している。子どもたちなりに友達を思う気持ちが芽生えてきている。



「いっしょにあそぼう」
「うん、いいよ!」

年少組

部屋に遊びに来てくれた年長組の園児の真似をして「くじ引き」を作っている子がいた。ティッシュペーパーの箱を何個かくっつけて、自分たちで作ったキャンディーを入れたり、バッジを準備したりしていた。「お店屋さんごっこ」のお金を作っていた子は、どうやって遊んでいいのかわからない様子だった。やり方を教えると「私もやりた～い」と嬉しそうに遊び始めた。ちょっとしたきっかけで、自分たちなりに遊べるようになってきた。

年中組

勤労感謝の前日、世の中にはいろいろな人たちが働いていて、そのおかげで生活ができていることを話し、どんな仕事があるか聞いてみた。パン屋さん、道路を作ってくれる人、警察官、消防士、先生など様々な職業があることを伝え、「えー!!先生も仕事なの?」という子もいた。勤労感謝の集いに運転士さんが登場すると、子どもたちは大喜び。日頃の感謝の気持ちを伝えられたいい集いになった。



「どうぞ、めしあがれ!」

年長組

今日は「お店屋さんごっこ」の日。「先生、放送もするんでしょう」と言う子や「お買いものリスト書いてきたよ」とメモを見せてくれる子。皆朝から楽しみにして

いるのが伝わってきた。いよいよ始まるとさすが年長組、買いたいものを真っ先に買いこんでいた。自分のところが売り切れると、残っているものがあることを宣伝する子もいたり、売り手と買い手のやり取りを楽しんだ「お店屋さんごっこ」だった。



理事会

学校法人八戸工業大学は、下記のとおり理事会を開催して各案件について審議を行い、それぞれ原案通り承認した。

◇11月16日

- ・学校法人八戸工業大学「給与」に関する件
- ・学校法人八戸工業大学「経費削減策」に関する件

◇12月21日

- ・学校法人八戸工業大学「法人グループ活性化委員会規程」制定に関する件

◇1月18日

- ・任期満了に伴う後任の学校長候補者の選任に関する件
- ・学校法人八戸工業大学「学生・生徒・園児に係る証明書発行取扱要領」制定に関する件
- ・八戸工業大学第一高等学校「学則」変更に関する件
- ・八戸工業大学第二高等学校「学則」変更に関する件

編集後記

昨年10月、北九州市小倉北区で開催されたB級ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」に、八戸から参加した「八戸せんべい汁研究所」が、見事グランプリを獲得。「金の箸」のトロフィーを手に八戸に凱旋した同研究所のメンバーを、大勢の市民が八戸駅で出迎えた様子や受賞を祝うセレモニーなどが、地元紙やテレビで大きく報道された。

今や日本で知らない人のいない大人気のイベントとなった「B-1グランプリ」。第7回目の今回は63団体が参加し、2日間で61万もの人々が押し寄せ大盛況だったようだ。地域にもたらす経済への波及効果は数百億円にものぼるといわれている。その発祥の地が実は当地八戸で、当時八戸地域地場産業振興センターに勤務していた同研究所の木村聡事務局長のアイデアが発端だという。安くて美味しいB級グルメブームの火付け役になった木村氏だが、その木村氏の母校が八戸工業大学第二高等学校である。

日本中で様々な町おこしが展開されているが、そのすべてが成功しているとは限らないようだ。町おこしには、利害を度外視して奮闘する木村氏のようなキーパーソンの存在と、地域住民の参加と意識の向上が欠かせないという。高校の後輩達には、八戸地方の郷土料理「八戸せんべい汁」を全国に知らしめた木村氏の飽くなきチャレンジ精神をしっかりと受け継いでいてもらいたい。

裏表紙：八戸工業大学第二高等学校

文部科学省主催「放射線等に関する課題研究活動の支援」発表会
 (東京大学安田講堂前にて)